伊勢半本店 紅ミュージアム 企画展

江戸の化粧美

美は赤・白・黒
でつくられた

江戸時代、女はたった三色で美しさを極めた

「当世美人合踊師匠」（部分）香蝶楼国貞・国立国会図書館 所蔵

「当世美人合 かこゐ」（部分）
歌川国貞・山口県立萩美術館・浦上記念館 所蔵

「江戸姿八契」（部分）香蝶楼国貞・国立国会図書館 所蔵

2007年2月1日（木）～3月31日（土）

《併催行事》

■2007年2月24日（土）
『紅で華やか卒業メイク
～袴に映える紅化粧～』

■2007年3月17日（土）
『紅・白粉・墨を使った
江戸の化粧を再現』

開館時間	午前11時～午後7時
休館日	毎週月曜日（祝日は開館）
観覧料	無料

［お問い合せ］
伊勢半本店　紅ミュージアム
東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F
TEL: 03-5467-3735
URL: http://www.isehan.co.jp

伊勢半本店
紅ミュージアム
since 1825

江戸の化粧美

美は赤・白・黒でつくられた

かつて化粧は、公家や武家といった一部の階級で行われていたにすぎないものでした。それが一般庶民にまで普及し、かつ化粧観や化粧術を説いた美容専門書が著されるまでに至ったのは、実に江戸時代中期以降のことです。

江戸時代の化粧は現代のような多彩なものではなく、紅（赤）・白粉（白）・墨（黒）の三色だけで展開されたものでした。たったの三色―、しかし当時の女性たちは、この三色で巧みに美しさをつくり出していったのです。

本企画展は、赤・白・黒の三色に展示ゾーンを分け、いかに江戸時代の女性たちが化粧をし、己をより美しく見せるために試行錯誤を凝らしていたのか、当時の美容専門書である『都風俗化粧伝』や『容顔美艶考』などをもとに概観します。浮世絵に描かれた化粧風景と関連した当時の化粧道具もあわせて展示します。

今と変わらぬ女性の美へのこだわりを、この機会にぜひご覧ください。

■赤化粧

「口紅粉の色濃はいやしきものなり」
（『絵本江戸紫』）

「頬さき、口ひる、爪さきにぬる事うすうすとあるべし」
（『女重宝記』）

■白化粧

「女と生まれては一日もおしろいをぬらず
素顔にあるべからず」（『女重宝記』）

「お顔に化粧なさるるならば…、まず鼻と口もとは（白粉を）
ずいぶんと濃くあそばし、頬は中ぐらい、目のあたりは
薄いがよろし」（『容顔美艶考』）

■黒化粧

「濃きにあかぬ物ははぐろ（歯黒）なり。
くろぐろと毎朝つけ給ふべし」（『女重宝記』）

「眉毛のつくりかた色々あれども、顔の恰好に
よりてつくりかた変はれり」（『都風俗化粧伝』）

「今風化粧鏡」歌川国貞・北海道立近代美術館 所蔵

【交　通】

●地下鉄
東京メトロ「表参道駅」下車 B1出口から徒歩12分

●バ　ス
①渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場
都01系統　　新橋行き「南青山7丁目」下車徒歩1分
都01系統折返　六本木ヒルズ行き「南青山7丁目」下車徒歩1分
②渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場
渋88系統　　新橋行き「南青山7丁目」下車徒歩30秒

伊勢半本店　紅ミュージアム
東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F
TEL：03-5467-3735
URL: http://www.isehan.co.jp

《併催行事》

■2007年2月24日（土）
『紅で華やか卒業メイク
～袴に映える紅化粧～』

■2007年3月17日（土）
『紅・白粉・墨を使った
江戸の化粧を再現』